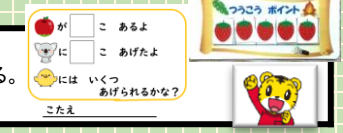


# W-note

授業構想シート  
授業構想チェックシート  
Rシート

【教材?】 【教材名: お出かけにいこう】



実施時期 **令和 4年 9月 ~ 10月** 学部 **小学部**

教科 **算数** グループ **C** 指導領域 **数と計算**

実態 実態について  
 個別の教育支援計画を確認 (その子どもに必要なこと?)  個別の指導計画で領域を確認  
 知識を段階化した一覧を実態表として使用し、実態を把握  
 「できない」ことは問題でなく、つまずきの原因が重要  
 (1) この題材で達成が可能? 【可能性】 (2) 現在の生活で必要は? 【必要性】  
 (3) 将来の豊かな生活につながる価値は? 【価値性】

**【対象児:D】**  
**知識及び技能**  
 ・20までの数字や数詞と対応する数対象を数え取ったり、数対象と対応する数字を書いたり、言ったりする。  
 ・「□をわけると○と?」(□=4, 5)を解く時、「5は1と4」「4は3と1」「4は1と2」「4は2と3」と答える。  
**思考力・判断力・表現力**  
 ・○個(10)までのえさを一方の動物に△個あげて、もう一方の動物にいくつあげられるかを答える時、○個分揃えたえさ積木から、△個を取り出して、正しい答えを出すことができる。  
**学びに向かう力・人間性等**  
 ・教師が言葉かけや指さしなどをすると、課題をやり直す。

**【対象児:H】**  
**知識及び技能**  
 ・25までの数字や数詞と対応する数対象を数え取ったり、数対象と対応する数字を書いたり言ったりする。  
 ・「□をわけると○と?」(□=10, ○=9まで)や「○と△あわせると?」(?=10まで)を解く時、自分で白板や紙に丸を書いて、線で囲み、答えを出すことができる。  
**思考力・判断力・表現力等**  
 ・一人が○個、もう一人が△個のえさをあげる時、それぞれがあげた個数を数字で示すと、○や△個分の丸を書いたり、指を使ったりして正しい答えを出すことができる。  
**学びに向かう力・人間性等**  
 ・授業の準備や片づけなどを自分からする。

**学習指導要領の扱う段階の目標と内容**  
 小学部2段階 A数と計算  
**【知識及び技能】**ア(ア)②一つの数を二つの数に分けたり、二つの数を一つの数にまとめたりして表すこと。  
**【思考力・判断力・表現力等】**ア(ア)⑦数詞と数字、ものとの関係に着目し、数の数え方や数の大きさの比べ方、表し方について考え、それらを学習や生活で興味をもって生かすこと。  
**【学びに向かう力・人間性等】**数量に関心を持ち、算数で学んだことの楽しさやよさを感じながら興味をもって学ぶ態度を養う。  
**【どうなっほしいかを三つの柱で整理】**  
**【D】**知:食べ物などの数(3~5)を2つに分ける時、数字に含まれる数量がわかり、3~5の分解をする  
 思:動物にあげるえさなどの数(3~5)を2つの数に分ける時、3~5の数量とその中に含まれる数量について考え、その数量との関係を判断し、残りの数を答え、その数字が記され封筒を選ぶ  
**【H】**知:食べ物などの数を1つに合わせたり、2つに分けたりする時、2つの数量を合わせた数量や3~5の数量とその中に含まれる数量がわかり、1~4の合成や3~5の分解をする  
 思:動物のえさなどの2つの数を1つに合わせたり、1つの数を2つに分けたりする時、問いの意味について考え、問いの意味と数量のイメージとのつながりを判断し、合わせた数や残りの数を答え、その数字が記された封筒を選ぶ

【仕組み】  
 ・イラストカードで示した島を渡り、ゴールの宝島を目指す。・コース上の島に問題を設定し、正答できたら通行ポイントを受け取る。  
 ・正答の封筒の中には通行ポイントが入っており、ポイントを全て集めるとお宝のイラストが手に入る。

【全 10 時間をどう使う?(題材計画)】

【一次】1時間 食べ物などの数を2つに分けたり、1つに合わせたりする数を答えることに課題をもつ	【二次】7時間 『○と△で?』『□は○と?』もプリント問題を解く時、2つの数量を合わせた数量や□の数量と、その中に含まれる数量との関係がわかり、?に当てはまる数を記入する	【三次】2時間
【知識及び技能】	動物のえさなどの2つの数を1つに合わせたり、1つの数を2つの数に分けたりする時、問いの意味について考え、2つの数が合わせた数量を判断し、合わせた数を答えたり、□の数量とその中に含まれる数量を考え、□の数量との関係を判断し、答えとなる数字が記された封筒を選ぶ	動物のえさなどの2つの数を1つに合わせたり、1つの数を2つの数に分けたりする時、問いの意味について考え、問いの意味と数量のイメージとのつながりを判断し、合わせた数や残りの数を答え、その数字が記された封筒を選ぶ
【主体的資】	<input checked="" type="checkbox"/> 教具を使って、1つに合わせた数や2つに分けた数を答える <input checked="" type="checkbox"/> 教具を使ったり、教師に尋ねたりして、数を1つに合わせる問題や数を2つに分ける問題に正解するまで取り組む <input checked="" type="checkbox"/> 自分で正誤判断したり、友だちの答えの正誤を判断して伝えたりする <input checked="" type="checkbox"/> 答えを導き出した理由を問われ、教具を使って説明しようとする <input checked="" type="checkbox"/> 数を合わせる、分けるの判断をして繰り返し正答し、最後まで取り組む	

**【めあて達成のための工夫は?(場面設定・教具・働きかけなど)】**

**○場面設定**  
 課題や活動に続けて取り組めるように、周回の動線を設定した。展開場面と発展場面と同じ動線にすることで、場所と活動が一致し、課題や活動に次々と取り組めるようにした。

**○知識及び技能を確実に段階的に習得するための教具の使い方**  
 数量とその関係が視覚的にわかるように、マス目の中に色の異なる2種類のシールを貼り付けた教具(おたすけちゃん)を活用する。高まりに応じて、マス目部分を伏せたり、枠だけにしたり、裏返したりして使用する。また、数がどのように変化したのかを児童が自ら説明できるように、問いに応じて、2つのまの積木を合わせたり、分ける数の分だけタイルをめくったりして説明する場面を設定した。

**【1時間をどう展開する?】**

学習活動	意図と働きかけ(主発問・みとめ・タイミングなど)	【板書・配置・教具など】
前時を振り返る 本時の内容を知る	○本時の学習に見通しがもてるように、めあてと活動の流れを黒板に示す。 ○前時の学習内容が思い出せるように、前時に解いた課題プリントを提示し、本時も数を合わせたり分けたりする学習をすることを伝える。	○板書 『お出かけに行こう』で取り組む課題の量が一目でわかるように、島のイラストを課題の数だけ黒板に提示する。
練習問題を解く	○練習問題を解く意欲が高まるように、全て解き終えたら『お出かけに行こう』でお宝シールを受け取ることができることを伝える。 ○数の構成や量が視覚的にわかるように、2色のシールを貼って教具を作る。 ○数量とその中に含まれる数量との関係をイメージできるように、教具を裏返す、教具のマス目部分のみを提示するなどして問題を解くように言葉をかける。 ○数量に含まれる数量の理解を深めるために、友だちの正誤を判断するように伝える。 ○数量とその中に含まれる数量との関係を説明できるように、積木やタイルなどを提示し、それらを教具を使ってどのように解いたか説明するように言葉をかける。	【改善】 ○合わせることや分けることの数量やその変化のイメージが定着するように、答え合わせの場面で、『おそろいちゃん』のみの活用から、積木やタイル、ホワイトボードに丸を書く、指を使うなど、様々な方法で数を合わせたり、分けたりする仕方に改善した。 ○Dは既習事項である教具を使っての合成の問いを二次の後半から混ぜるようにし、合成と分解の問いの意味や数量の変化の違いを考えられるように改善した。
『お出かけに行こう』で、問題を解く	○問題が変わっても学習したことを活用して答えられるように、数が増えたり、減ったりする文章の問題を解くことを伝える。 ○数量とその中に含まれる数量を判断して、正しい数を答えられるか様子を見る。	
本時を振り返る	○本時で学習したことを確かめたり、共有したりするために、わかったことやできたことを発表することを伝える。 ○数を合わせる、分けることができたと実感を得ることができるように、本時で解いた問題を示し、解き方を尋ね、答えられたことを認める。 ○次時への学習意欲がもてるように、次時も問題を解いて島を渡ってお宝を見つける活動を知らせる。	

<b>【何を学ぶ?(知識)】</b> ・5までの数量とその中に含まれる数量との関係、1~4の2つの数量をまとめた数量	<b>【○と判断できる発言や姿】</b> ・プリントに正しい数を記入する	<b>【大まかにどう段階化する?(詳細は題材計画で)】</b> ・教具や支援あり→支援なし ・扱う数の変化(小さい数→大きい数)
<b>【どう学ぶ?(活動)】</b> ・生活場面で想定される問いに対して身の回りの物の数を合わせたり、分けたりする	<b>【○と判断できる発言や姿】</b> ・合わせた数や残りの数を答えて、その数字が記された封筒を選ぶ	<b>【大まかにどう段階化する?(詳細は題材計画で)】</b> ・合成のみ→分解のみ→合成・分解 ・「□は○と?」「○と△で?」のプリント→身の回りの物の数を問う文章題
<b>【望む姿勢や姿は?】</b> ・教具を使ったり、教師に尋ねたりして、正解するまで取り組む ・答えを導き出した理由を教具などを使って説明しようとする	<b>【どう引き出す?】</b> ・教具のよさを伝えたり、正解するまで取り組もうとする姿を認めたりする ・正解した際に、教具を使いながらわかったことを意味づける ・数を合わせる、分けるの判断をして繰り返し取り組めるように、できるようになったことを認める	

**【評価】**

開始時の姿(実態・課題)	指導・支援	結果
【D】 ○4は3と1、5は1と4、5は3と2 ×4は1と2、4は2と3、 5は2と1、5は4と3 【H】 合成 ○3、4、1と4で5 ×3と2で1 分解 ○3、5は2と3 ×4は2と3、4は3と2、 5は1と2	【D・H】 ・『おたすけちゃん』を見て答える、おたすけちゃんの右側(マス目部分)を見て答える、枠を見て答える、裏返すなど手がかりを減らしていき、数量とその中に含まれる数量や、合わせた数量を意味づける言葉をかける。 ・生活場面で想定される問いを提示し、答え合わせの場面で教具を合わせたり分けたりして状況を表現するようにした。	【D】 念頭操作で5までの分解ができるようになり、問いを読んで5までの合成か分解かを判断し、答えを出せるようになった。 【H】 念頭操作で5までの合成・分解ができるようになり、生活場面で想定される問いでも数がどのように変化したか、判断できるようになった。

① 9 / 5 欠 1名	【うまくいかなかったこと】
【うまくいったこと】 ・DとH:『おでかけにいこう』の仕組みや、数を合わせる、分ける活動をするを伝えると、言葉かけに応じて取り組むことができた	
【気づいたこと】 ・答え合わせの場所と解く場所が近かったため、待ち時間に自由に歩き回る姿があった	
<b>主・対で深い学びの実現に向けた改善</b> ・机との距離を広げ、並んで待つように伝える	
② 9 / 7 欠 1名	【うまくいかなかったこと】 ・授業時間が5分オーバーした ・D:わからない時に教師の支援を求め
【うまくいったこと】 ・D:4の分解の時に「わからん」と言ったが、教具を活用することで、最後の2問は教具の支援なしで解けた ・H:3と4の合成を支援なしで正答	
【気づいたこと】 ・初めて解く課題についての抵抗が強いのではないが	
<b>主・対で深い学びの実現に向けた改善</b> ・授業時間が5分超えたため、振り返りでは全体に学んだことを発表する児童と、教師と振り返る児童を決めておく ・はじめて解く課題については教師がそばで「どれ(教具)を使って考えてみる?」と言葉をかけたり、段階的に手がかりを減らす時もDが自分から教具を使用するかどうかを決められるように取り組む	
③ 9 / 12 欠 なし	【うまくいかなかったこと】 ・Dの課題が想定より10分早く終わった
【うまくいったこと】 ・DとH:支援なしで正答	
【気づいたこと】 ・D:3や4の分解に自信が付き、教具を使わなくなったことで、解くスピードが速くなったのではないが	
<b>主・対で深い学びの実現に向けた改善</b> ・D:課題数を12問へと増やし、それでも時間に余裕があり、本人の意欲もあれば追加で5問実施する ・H:3~5の思・判・表○なので、次回3・4の分解を扱うように変更	
④ 9 / 16 欠 1名	【うまくいかなかったこと】 ・D:問われた状況の意味(「逃げた、どうしたこと?」)を尋ねると、動作で答えた ・H:分解の問題に対して、合成した結果を記数することがあった
【うまくいったこと】 ・D:追加分も支援なしで正答 教師が元の数量分だけ丸を書くと、分ける部分に線を描いて答えた ・H:わからない時に自分から教具の使用を求めた	
【気づいたこと】 ・D:3や4では数を混ぜても負荷がなかったのではないが頭の中で考えたことを表現する仕方がわかっていなかった 教師主体で答え合わせをしていた ・H:合成の問いと分解の問いとの違いがわかっていないのではないが	
<b>主・対で深い学びの実現に向けた改善</b> ・DとH:答え合わせの場面で、どのように考えたのかを問いかけ、これまでの教具を使って考えたことを表現する仕方を示す ・D:既習の合成の問題を混ぜて出題する ・H:合成のプリントと見比べ、手がかりとなる言葉に印をつけ、キーワードと分解(合成)の操作がつながるようにする	
⑤ 9 / 21 欠 なし	【うまくいかなかったこと】 ・H:思・判・表の問いで、記された2つの数字をなぞった後、すぐに答えを書いた
【うまくいったこと】 ・D:5の分解は教具の手がかりを減らしながら正答 合成の問いでは合成した結果を記数した ・H:3・4の分解を支援なしで正答	
【気づいたこと】 ・D:段階的に支援を抜くことで5の分解の念頭操作ができてきた ・H:文章を読む様子が見られなかったことから、数字から分解の問題だと判断している	
<b>主・対で深い学びの実現に向けた改善</b> ・H:文章の意味を理解して判断できるように文章を声に出して読んだり、答えを書いた後に教具を使って数量の変化のイメージが定着するようにしたりする	

⑥ 9 / 27 欠 D	【うまくいかなかったこと】
【うまくいったこと】 ・H:教具を使って答えを出したり、考えたことを表現したりすることができた 教具を段階的に減らして正答	
【気づいたこと】 ・H:支援を減らしてできたので、5の分解のイメージはできつつある	
<b>主・対で深い学びの実現に向けた改善</b> ・H:5の分解の知識及び技能の習得を確認ができてから思・判・表の問題に移行する	
⑦ 9 / 28 欠 D 他1名	【うまくいかなかったこと】 ・H:支援なしでは知・技の問いで2問、思・判・表の問いで3問誤答する
【うまくいったこと】 ・H:教師と一緒に問いの意味に応じて教具を操作すると正答する	
【気づいたこと】 ・H:記数した数字を見ると、見当違いな答えは書いていない 合成と分解の問題を混ぜて出題すると、形式的操作で答えを出していた可能性がある 問題文が表す状況をイメージできていないのではないが	
<b>主・対で深い学びの実現に向けた改善</b> ・H:一度答えを書いてから、積木を使って数がどのように変化したかを説明するようにする	
⑧ 9 / 30 欠 なし	【うまくいかなかったこと】 ・D:「5は3と2」の問題で「2だったかな」と言う ・H:積木がない時に教師の顔を見る
【うまくいったこと】 ・D:「1問する」と言うが、3問取り組み、全問正答 教具を使ってもよいと伝えると支援なしで正答 ・H:答えを書いてから積木を使って状況を考え、正答することができた	
【気づいたこと】 ・D:休み明けだったため、自信がなくなったのではないが ・H:答え合わせの場面で、やり直しを積み重ねることで自己肯定感の低下につながったのではないが	
<b>主・対で深い学びの実現に向けた改善</b> ・D:取り組む量を相談し、課題に取り組む姿を大いに認めていく ・H:自分でできるという気持ちももてるように、課題を解く場所に積木を置き、記数してから操作し、必要であればその場でやり直すようにする(答え合わせの場面でやり直しはしないようにする)	
⑨ 10 / 4 欠 なし	【うまくいかなかったこと】 H:状況がイメージできていない問題が3問あった
【うまくいったこと】 ・D:全問正答し、どうやって考えたのかを積木やタイルを使って説明することもできた ・H:思・判・表の問いで、5/8正答、積木を使ってやり直すと全問正答	
【気づいたこと】 ・H:前回より操作なしで正答する問題数が増えたため、イメージができてきた 追加で食べた問題(○個食べて更に△個食べた)と、食べた残りの問題(□個の内○個食べた)で誤答していた	
<b>主・対で深い学びの実現に向けた改善</b> ・食べた数を聞かれているのか、皿に残っている数を聞かれているのかがわかるように、より具体的な動作(実際に食べる真似)で確認してから解くようにする	
⑩ 10 / 6 欠 なし	【うまくいかなかったこと】
【うまくいったこと】 ・D:全問正答 ・H:積木の操作をする前に全問正答	
【気づいたこと】 ・H:具体的な動作と操作を結びつけるとイメージしやすいことがわかった	
<b>主・対で深い学びの実現に向けた改善</b>	

## 実践のポイント

### 知識及び技能を確実に段階的に習得するための教具の使い方

数量とその中に含まれる数量との関係や、2つの数量を合わせた数量がイメージできるように、教具の手がかりを段階的に減らして問題に取り組むようにした。

見ながら ➡ マス目 ➡ 枠 ➡ 裏返す ➡ なし

### 知識及び技能の理解を深めるための学習活動と働きかけの工夫

数量やその変化のイメージが定着するように、考えたことを教具を使って説明する場面を設定した。

### 習得した知識及び技能を基に思考、判断、表現するための題材計画の工夫

問いの意味から数量のイメージを判断できるように、合成と分解を1つの題材で扱い、それぞれの習得状況に応じて、1時間の中で同時に出題するようにした。

時	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
知・技	課題を知る	合成			分解					
		3・4	5	3~5	3	4	5			
思・判・表		合成			分解			合成・分解		
		3・4	5	3~5	3	4	5	3~5		

働きかけについて(HOW TO)

- ☑ 自ら考え、判断して行動する手助けをするためのもの
- ☑ 活動「開始時」「途中」「つまずき」「終了時」を想定
- ☑ 誘い、示範例示、助言、説明、問いかけ、盛り上げ、賞賛、励まし、認め、意味づけなどを行う
- ☑ 子どもに合わせた伝わりやすいことばや提示
- ☑ 抑揚や身振り、表情、子どもの好きなものなど工夫
- ☑ つまずきに対して答えでなく段階的な働きかけ
- ☑ 課題遂行につながる効果的なことばかけ
- ☑ 何がよかったかわかるよう即時評価
- ☑ よさや価値を伝えられる認め
- ☑ 働きかけを段階的に減らしていく工夫

- ### 題材目標について
- ☑ それぞれの子どもの目標を個別化する
  - ☑ 授業の評価・改善ができるよう、題材の最後の姿(到達像)の具体化する
  - ☑ 身につけたいことを焦点化する
  - ☑ 前単元や題材、または、日常生活で意欲的に取り組めた工夫を活用
    - 例:教材の仕組み、学習環境の工夫など
- ### 教材について
- ☑ 子どもに身につけてほしい知識及び技能、生活に生かせるような思考力・判断力・表現力をその教材で習得・育成できる?
  - ☑ 必要性を感じ、課題をもてる?
  - ☑ 主体的・対話的な活動は取り入れられる?
  - ☑ 絵、写真、ビデオなど具体物を使用するなどの工夫ができる?
  - ☐ 子どもが自分でルールを決めたり、役割を設定したりできる?
  - ☑ 子どもにとっての強化子はある?
- ### 題材計画について
- ☑ つまずきの原因分析から、できること・わかることが段階化されている?
  - ☑ 子ども学び取りの傾向から課題の引き受けや実施方法が検討・工夫されている?
  - ☑ 全体の計画と個別の計画がわかるようになっている?
- ### 【一次】
- ☑ 仕組みを理解したり、楽しさを感じたりできる?
  - ☑ 活動の意味やよさが十分理解できる?
- ### 【二次】
- ☑ 二次は確実な知識の習得
  - ☑ 子どもに到達してほしい頭の使い方がぶれていない?
  - ☑ 負荷がかかりすぎていない?
  - ☑ 支援が減る、問題の難易度が高まるなどしている?
  - ☑ 友だちと一緒に学ぶ場が計画されている?
  - ☑ 自分で考えた仕方や解決方法を生かせる仕組み?
- ### 【三次】
- ☑ できるようになったことを生かす場は設定されている?
- ### 学習環境について
- ☑ 活動の流れや量、しやすさを考えた道具材料の配置?
  - ☑ 不要な刺激は排除している?
  - ☑ 仕方や手順がわかりやすく伝えられる?
  - ☑ 成果が見てわかる?
  - ☑ 自分で仕方や手順を確かめられる?
  - ☑ 教具は、思考(わかる)を補助できる?
  - ☑ 教具は一人で使えるようになる?
  - ☑ 期待感(してみたい!)をもてる?
- ### 学習活動について
- ☑ 導入は課題理解、興味関心
  - ☑ 展開は知識習得のため、教具の理解や操作が適切?
  - ☑ 発展は定着、応用、工夫できる?
  - ☑ 終末は自己評価と次時への意欲
  - ☑ 目的や意味、よさがわかる?
  - ☑ 何をどのくらいどのようにするかわかる?
  - ☑ 課題は段階的に高まっている?
  - ☑ 間違いに気づいてやり直せる仕組み?
  - ☑ 学習の結果と目的がつながって達成感もてる?
- ### 評価について
- ☑ めあてと指導はつながってる?
  - ☑ 文章・文法はわかりやすい?伝わる?
  - ☑ 不適切な表現はない?(難しい、できないなど)